

平成 21 年 6 月 2 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2005 -2008

課題番号：17310140

研究課題名（和文） 漢字文化圏の「近代」に関する総合的研究

研究課題名（英文） Language Reform and Modernity; an East Asian Perspective

研究代表者

刈間 文俊（KARIMA FUMITOSHI）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：00161258

研究成果の概要：

中国では、漢字が、簡略化や教育によって、血肉化され、作家達も、前近代的なものを凝視し続けた。戦前の日中関係では、日本の漢学者と漢字紙が大きな役割を果たした。戦後韓国は、漢字を駆逐する一方、伝統的な同姓不婚制度を再構築させ、台湾は、漢字を簡略化せず、80年代以降には、多文化主義的な社会統合理念を形成した。それに対して、中国大陸では今や、漢字文化からも消費文化からも疎遠な農村が、自律と国家による制御の間で揺れ動いている。本研究は以上を実証的に解明した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	2,100,000	0	2,100,000
2006 年度	1,000,000	0	1,000,000
2007 年度	900,000	270,000	1,170,000
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
総計	4,800,000	510,000	5,310,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：漢字文化圏 国民国家 近代 言語文化

1. 研究開始当初の背景

平成 12 年度から 15 年度まで、本研究メンバーの一部を中心に、科学研究費補助金（基盤研究 C「漢字文化圏における言語と『近代』」）を受けた。研究成果のうち、「言語をめぐる権力」、「古典からの離脱」、「ことばと文字」の三領域に関して、『漢字圏の近代』（東京大学出版会、2005 年）に一般向きにまとめて出版したところ、読書界の好評を博した。そこで、こうした言語と近代をめぐる諸問題と無

関係ではありえない社会状況やシステムに対する分析を付け加え、中心的主旨はそのままにして、研究対象の範囲を広げるとともに、研究の立体化を進めることとなった。

2. 研究の目的

語文改革と平行して、現在もなお「未完のプロジェクト」（ハーバース）として継続されている近代化過程の中で、漢字文化圏における言語文化システム及び社会文化システ

ムはどのようなものになってきたのか、そして、その中でいかなる問題が生成されてきたのかを、なるべく漢字文化圏全域をカバーする形で、総合的にかつ立体的にとらえることが本研究の目的であった。

3. 研究の方法

本研究は学科横断的な方法によって行った。各メンバーは、それぞれの分担領域において、それぞれ得意とするディシプリンの方法論を存分に駆使し、専門的な分析を深めた。方法論を共有した一面的な分析では、言語文化層から社会文化層にわたる漢字文化圏の立体的な構造や動きを、リアリティのある形でとらえられないのではないかと恐れたためである。その代わりに、東アジア（日本語、中国語、韓国朝鮮語、ベトナム語、広東語）の言語環境を越境できるメンバー（瀬地山、岩月）を中心に、なるべく各人の研究成果を相互に連絡しあうよう努めた。

4. 研究成果

(1) 中国語形成過程と中国語システムの解明

客家語の漢字とローマ字の両方が記された19世紀の教科書『啓蒙浅学』を発掘・紹介し、漢字とローマ字両方のヴァージョンを使って、方向を表す成分の記述と分析を行った。

五四時期の漢字廃止論が文字の簡略化論へと変化し、1934年の簡体字案になったことを実証的に解明した。

相対的に言って、日本語の「誰でも+VP」は非事実の出来事に関する話者の判断に用いられ、「誰もが+VP」は客観的な叙述に用いられるが、同じく全称の中国語“誰+都+VP”は、話者の判断に用いられ、“個個+（都）+VP”は描写に用いられることを明らかにした。

(2) 中国文化の近代的諸形式の解明

魯迅は、作家的表現においてモダンを超え、ポストモダンにまで至ったが、しかし常に自分の中のプレモダンを凝視し忘れなかったことを指摘した。

周作人は、道具理性に対抗する審美近代性を「デカダンス」概念を通して獲得し、近代中国に独特の仕方で土着化させたことを指摘した。

林語堂は、中国の土着的な文化から隔絶された一方で、「宣教師」のような視線で中国文化を憧憬しつつ、同時に「信仰」を審美的なものとして見る視点を持っていたことを指摘した。

(3) 中国の農村をめぐる社会システム

中国における農地収用問題は「食糧安全保

障リスク」、「失地農民リスク」、「地方主義リスク」とも「客観的リスク」になりにくい、「地方主義リスク」は「主観的リスク」を構成しうることを指摘した。

一見したところパラバラに見える村民自治、農民上訪、税費改革など近年の動きが、国家による「農村リーダー制御の政治」に連なるものとして結び付けられていることを指摘した。

(4) 韓国朝鮮語システムおよび日本社会との関係

現代韓国語においては、正用・誤用の判断が付きにくい複数の形態・発音が存在していることを指摘した。

在日コリアンの言語使用状況をアンケート調査によって明らかにした。

(5) 現代韓国の社会階層

都市自営業部門への参入/からの撤退の規定要因とそれがもたらす所得変動についての実証分析を通じ、被雇用者から都市自営業者への頻繁な労働移動が、平均的には所得の増大をもたらすものの、社会全体においては所得不平等を拡大させる契機をはらんでいるという事実を示した。

韓国における非正規雇用の増大と非正規雇用への移動に関する要因について検討し、それが社会階層構造にもたらす影響について論じた。

韓国の戦後ナショナリズムの中で、日本の植民地支配の残滓を克服するという観点から、伝統的な同姓同本不婚制度が、再度構築されたことを指摘した。

(6) 台湾の政治とアイデンティティ

80年代から始まった台湾原住民族運動が台湾社会の多文化性を可視化するとともにその内部植民地主義批判の正統性が受け入れられたことを重要な契機として多文化主義的な社会統合理念が形成されたことを示した。

戦後政治における時間の意義が、独裁者の生命の時間に区切られる権威主義的時間から民主化によりあらかじめ了解された時限性の中に置かれた時間に転換するとともに、同時に生じたアイデンティティ・ポリティックスの展開の中では、ナショナル・アイデンティティをめぐる記憶の時間の争点も生じたことを示した。

(7) ベトナムと漢字の関係

ベトナムには「訓読法」は存在しないが、字音だけで読解せず、ベトナム固有語で現れる意味を経由して読解していることを明らかにした。

(8) 漢字文化圏内の相互比較対照

日韓両社会における教育制度の特徴を、そこにおいて追求されている「平等性」の具体的なあり方の考察を通じて明らかにし、さらにそれがひとびとの地位達成機会にも少な

からめ影響を及ぼしていることを示した。

日本における訓読には訓点のような補助符号の側面と漢字の訓読みの側面とが混在しているというユニークな点があることを明らかにした。

高齢者の就業パターンは、中国語圏で最も消極的で日本が最も積極的、韓国はその中間に位置することを明らかにした。

女性労働者の面では、その活用に積極的な台湾、消極的な韓国、中間的な日本という図式があることを指摘した。

戦前の日中文化事業交流においては、中国語の堪能な漢学者と日本人による漢字紙が大きな役割を、良し悪しはともかく、果たしたことを実証的に跡付けた。

日本語の「芸術」が、中国語の「芸術」や英語の“art”に比べて、視聴覚的快感に、より大きな価値を与えていることを指摘した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計 32 件)

1) 伊藤徳也「生活のための生活 - 周作人における『生活の芸術』」、『東洋文化研究所紀要』155、2009年、61-92頁、査読なし。

2) 村田雄二郎、「清末の言論自由と新聞 天津『国聞報』の場合」、『近きに在りて』第54号、2008年11月、2-16頁、査読なし。

3) 楊凱栄、木村英樹、「授与と受動の構文ネットワーク 中国語授与動詞の文法化に関する方言比較文法試論」、『ヴォイスの対照研究』、くろしお出版、2008年、pp65-91、査読なし。

4) 楊凱栄、「日中頻度副詞“總是”と“いつも”の対照研究」、『大東文化大学外国語学部創設 35 周年記念論文集』2008年、pp. 321-338、査読なし。

5) 田原史起「中国農村の道づくり 『つながり』・『まとまり』・リーダーシップ」竹中千春・高橋伸夫・山本信人編著、『現代アジア研究 第2巻 市民社会』慶応義塾大学出版社、133-155頁、2008年、査読無。

6) 田原史起「中国農村政治の構図 村民自治・農民上訪・税費改革をどうみるか」天児慧・浅野亮編著『世界政治叢書第8巻 中国・台湾』ミネルヴァ書房、105-131頁、2008年、査読無。

7) 代田智明「魯迅論と個の自由な主体性について - 伊藤虎丸をきっかけにして」、『颯風』第45号。査読無、2008年、1-40。

8) 伊藤徳也「審美価値としての『苦』 - 周作人における『生活の芸術』」、『現代中国』82、日本現代中国学会、2008年、131-141頁、

査読あり。

9) 岩月純一「ベトナムの『訓読』と日本の『訓読』 - 漢字文化圏の多様性」、『訓読論 東アジア漢文世界と日本語』、勉成出版、2008年、105-119頁、査読なし。

10) 代田智明「魯迅における「復讐」と「終末」」、『野草』第79号。有。2007年。Pp.1-16、査読あり。

11) 岩月純一「『漢字』と『訓読』の関係をめぐって 子安宣邦『漢字論 - 不可避の他者』を手がかりに」、『言語社会』(一橋大学大学院言語社会研究科) 査読無、1号、2007年3月、145-158ページ。

12) 田原史起「土地管理をめぐる政治的リスク」佐々木智弘編『中国の政治的安定性の課題』アジア経済研究所、43-70頁、2007年、査読無。

13) 楊凱栄「表全称句式的中日対比研究」、『日語研究』5、2007年、39-56頁、査読なし。

14) C・ラマール、「A contrastive study of the linguistic encoding of motion events in Standard Chinese and in the Guanzhong dialect of Mandarin (Shaanxi)」、『中國語言學集刊』*2.1:137-170 (Tang, Zhengda and Lamarre, Christine)2007年、査読なし。

15) 有田伸「地位達成と選抜システムの韓日比較(原題韓国語)」、『遂行人文学(韓国漢陽大学)』査読無、37-2、2007年、73-94頁。査読なし。

16) 若林正文「現代台湾のもう一つの脱植民地化: 原住民族運動と多文化主義」、『台湾原住民族研究』第11号、13-54頁。日本順益台湾原住民族研究会編(風響社刊)2007年、査読なし。

17) 伊藤徳也「デカダンスの精練 - 周作人における『生活の芸術』」、『東洋文化研究所紀要』152、2007年、119-140頁、査読なし。

18) 伊藤徳也「林語堂の自己形成 - 初期の文化意識を中心に」、『従林語堂研究看文化的相融/相涵国際学術研討会論文集』、林語堂故居、2007年、pp.175-186、査読なし。

19) 瀬地山角「東アジアの中の日本の少子化・女性労働・高齢化 - 労働力再生産システムの比較社会学」、『翰林日本学』(査読なし)11号、2007年、翰林大学校(韓国)35-61。

20) ラマール「從趨向範疇的方言表述看“書面漢語中的不同層次”的判定」、『中国語学』254号、2007年、pp. 51-73、査読あり。

21) 生越直樹「在日コリアンの言語使用」、『在日コリアンの言語』(編集 生越直樹)、科学研究費補助金「移民コミュニティの言語の社会言語学的研究」研究成果報告書(研究代表者 日比谷潤子)、2007年3月、pp3-10、査読なし。

22) 生越直樹「日本と韓国の言語行動対照分析」、『講座・日本語教育学2 言語と社会・文化』、スリーエーネットワーク、2006年、

- 201-212 頁、査読なし。
- 23) 瀬地山角「東アジアの家父長制、その後」、『家族変容とジェンダー』日本評論社、2006年、151-174 頁、査読なし。
- 24) 田原史起「中国農村における革命と社会主義経験 - 地域社会の『原子化』と『組織化』」、『歴史学研究』820、2006 年、130-136 頁、査読なし。
- 25) 伊藤徳也「周作人、魯迅をめぐる日中文化交流」、『「帝国」日本の学知 5 東アジアの文学・言語空間』、岩波書店、2006 年、61-104 頁、査読なし。
- 26) 伊藤徳也「周作人の日本 - 『生活の芸術』と倫理的主体」、『日本を意識する』、講談社、2005 年、113-131 頁、査読なし。
- 27) 有田伸「職業意識と教育熱の韓日比較研究 - 高校生の職業希望と教育システム」、『韓国の教育熱、世界の教育熱 - 解剖と対策』、図書出版夏雨、2005 年、427-451 頁、査読なし。
- 28) CHIRKOVA, Ekaterina and Christine LAMARRE, "The paradox of the construction [V zai NPLOC] and its meanings in the Beijing dialect of Mandarin." , *Cahiers de Linguistique Asie orientale*, 34-2, 2005, pp. 169-220、査読なし。
- 29) 岩月純一「近代ベトナムにおける『漢字』の問題」、『漢字圏の近代』、東京大学出版会、2005 年、131-148 頁、査読なし。
- 30) 生越直樹「朝鮮語と漢字」、『漢字圏の近代』、東京大学出版会、2005 年、149-168 頁、査読なし。
- 31) C・ラマール「地域語で書くこと - 客家語のケース」(1860-1910)、『漢字圏の近代』、東京大学出版会、2005 年、169-192 頁、査読なし。
- 32) 伊藤徳也「近代中国における文学言語」、『漢字圏の近代』、東京大学出版会、2005 年、pp. 93-105、査読なし。

〔学会発表〕(計 8 件)

- 1) 代田智明「翻訳という態度について - 魯迅の翻訳論を導きとして」、『国際会議 中日文化交流与中国現代文学』、2009 年 1 月 10 日、浙江師範大学。
- 2) 代田智明「資本主義という社会主義と社会主義という資本主義」、『東アジア文化研究会』2008 年 12 月 3 日、法政大学。
- 3) 若林正文「現代中国の分裂国家 - 中台の非対称性・地理戦略的重要性・台湾アイデンティティー - 」、「アジア国家の分断と統合 60 年の軌跡と展望」、『愛知大学国際問題研究所創立 60 周年記念シンポジウム』、2008 年 11 月 22 日、名古屋、愛知大学車道校舎。
- 4) 代田智明「国民共通語の形成と「言文一

致」』、『国際シンポジウム 近代化とコミュニケーションツール』2008 年 4 月 21 日、三重大学。

5) 代田智明「魯迅における「復讐」と「終末」」、『国際学術シンポジウム 魯迅逝去 70 周年 魯迅文学の再認識』2006 年 11 月 4 日、日本女子大学。

6) 伊藤徳也「林語堂の自我形成 - 以初期中国文化意識を中心」、『跨越與前進 從林語堂研究看文化的相融 / 相涵』國際學術研討會、2006 年 10 月 14 日、台北、東吳大学。

7) 田原史起「中国農村政治の構図 農村リーダーから見た中央・地方・農民」、『中国現代史研究会』、2006 年 3 月 27 日、KKR ホテルびわこ。

8) 田原史起「中国農村開発与村級領導能力 - 以北京遠郊 X 村蔬菜批發市場為例」、『近世中国經濟發展模式選擇与实践』國際學術研討會、江西財經大学、2005 年 5 月 14 日。

〔図書〕(計 4 件)

- 1) 若林正文、東京大学出版会、『台湾の政治 中華民國台湾化の戦後史』2008 年、p458 .
- 2) 田原史起、山川出版社、『二十世紀中国の革命と農村』2008 年、90 頁
- 3) 代田智明、東京大学出版会、『魯迅を読み解く - 謎と不思議の小説 10 編』2006 年、307 頁。
- 4) 村田雄二郎等、東京大学出版会、『漢字圏の近代 ことばと国家』2005 年、222 頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

刈間 文俊

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：00161258

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

高橋 満

帝京大学・経済学部・教授

研究者番号：50126108

古田 元夫

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：50114632

若林 正文

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：60114716

黒住 真

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：00153411

代田 智明

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：60154382

深川 由紀子

早稲田大学・政治経済学術院・教授

研究者番号：30306485

生越 直樹

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：90152454

クリスティーヌ ラマール

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：30240394

高見澤 磨

東京大学・東洋文化研究所・教授

研究者番号：70212016

楊 凱宋

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：00248543

谷垣 真理子

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：50227211

伊藤 徳也

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：10213068

瀬地山 角

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：80250398

田原 史起

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：20308563

有田 伸

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：30345061

岩月 純一

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：80313162